

2 年 次 生

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォーカルレッスンⅢ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々な要素を併せ持っています。そして、それらの音楽を歌うためには、作品や役柄を理解し、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標

1クォーターでは、将来を見据え、過去のオーディション曲に挑戦し、レベルアップを目指します。また、2クォーターでは、自分の強みを生かしレパートリーになる曲を選曲、オーディション用のデモ曲としても使えるように練習、録音していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカルオーディションに向けて①	過去のオーディション課題曲群(別紙)から選曲し、作品、シーン、キャラクターを理解して歌えるようレッスンしていきます。
第2回	ミュージカルオーディションに向けて②	楽譜のテンポ、リズム、強弱、歌詞を正確に読み、それを自分なりに解釈し、表現に繋がられる歌い方を学びます。
第3回	ミュージカルオーディションに向けて③	呼吸(ブレスコントロール、息と声のバランス)・姿勢・声帯の動きをコントロールしながら、声の充実度をあげていきます。
第4回	ミュージカルオーディションに向けて④	明るくクリアな母音発声を基本としながら、曲やキャラクターにフィットした音色も使いこなせるように勉強します。
第5回	ミュージカルオーディションに向けて⑤	学習した声の出し方を意識しながら、表現をバックアップする身体表現、表情を工夫して歌ってみます。
第6回	第1回学内歌唱オーディションにむけて	学内歌唱オーディション曲を通し、自分の良さを存分に出すための方法、オーディションに必要な事を学びます。
第7回	1クォーター末歌唱試験実施とフィードバック	任意の1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックをもらい、弱点を理解し、次の課題曲を決めます。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
平常点としては、レッスンを受ける前向きな姿勢、日々の練習の度合い、また教えられた内容の理解力、その積極性や向上心を評価します。また、試験は習得した内容が実践できているかを重要視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	あなたの得意な音楽ジャンル曲に挑戦	学内オーディションの講評を確認し、自分のアピールポイントを自覚、得意ジャンルの曲にどんどん挑戦します。
第2回	パフォーマンスカアッパで曲をレパートリー化	得意ジャンルの曲でキャラクターにあった曲を見つけ、自然な表情、表現、バラツキのない安定感のある声を目指します。
第3回	既存の伴奏音源でもあなたらしく歌うには	伴奏音源を用意し、音源を使っての効果的な歌い方(拍子感、テンポ感、ブレス、ダイナミクスの変化など)を学びます。
第4回	バリオ公演演目オーディションにむけて	バリオ公演オーディション曲を通して、読譜力、基礎力を固め、必要とされている内容にどう近づけていくか勉強します。
第5回	オーディション用のデモ曲制作に向けて	SV学科での録音や宅録などに向けて、空間での響き、音源とのバランスなども自分で感じられるアンテナを持てるようにします。
第6回	春学期末試験曲で総合力アップをめざす	試験曲を選曲し、習得した技術が曲中でうまく使えるように自己コントロールをしていけるよう繰り返し練習します。
第7回	春学期末試験曲のブラッシュアップ	作品とシーン、キャラクターを理解し、表現とテクニックのバランスを取り、ブラッシュアップしていきましょう。
第8回	春学期末歌唱試験の実施とフィードバック	任意の1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックで弱点を理解し、次の課題曲を決めましょう。

学期末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
平常点としては、レッスンを受ける前向きな姿勢、日々の練習の度合い、また教えられた内容の理解力、その積極性や向上心を評価します。また、試験は習得した内容を実践できているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルレッスンⅣ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々な要素を併せ持っています。そして、それらの音楽を歌うためには、作品や役柄を理解し、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標

3クォーターでは、テーマパークのパフォーマーオーディションやシンガーオーディションを意識し、声の充実、表現力のアップを目指します。4クォーターでは、自分をどうプロデュースしていくかを意識し、劇団オーディションも視野に入れた様々なレッスンをしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	第2回学内歌唱オーディションにむけて②	学内オーディション曲を選曲し、1曲を歌いきる集中力と疲れのない体の使い方、エネルギー配分を学びます。
第2回	第2回学内歌唱オーディションにむけて③	オーディション本番を想定し、音楽、表現ともにコントロールしてパフォーマンスできるよう繰り返し練習します。
第3回	第2回学内歌唱オーディションの講評と目標設定	学内オーディションのフィードバック、それを理解し自分のクリアする目標をはっきり決め、レッスンしていきます。
第4回	テーマパークオーディションに向けて①	明るくアップテンポな曲を、テンポ感、グルーブ感を持ちながら自分の「声の鳴り」を意識し、歌えるようレッスンします。
第5回	テーマパークオーディションに向けて②	明瞭な滑舌と明るい表情、のびやかな声、仕事として人前で歌う事のできる完成度を目指しレッスンします。
第6回	3クォーター末試験曲で総合力をアップ	試験曲を選曲し、習得した技術が曲中でうまく使えるようにメンタル的にもテクニク的にも自己コントロールする方法を習得しましょう。
第7回	3クォーター末歌唱試験の実施とフィードバック	任意の1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックをもらい、次のクォーターの課題曲を決めます。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスン内でのモチベーションや発声、音楽についての理解力、積極性や向上心を測ります。また、実技点としては、仕事に繋がる完成度を重要視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	劇団オーディションに向けて必要なこと①	自分の持ち味を生かした自由曲を選曲をし、各劇団が要求している声量、表現力等レベルに近づけるよう繰り返し歌います。
第2回	劇団オーディションに向けて必要なこと②	過去の課題曲をレッスンします。基礎的なことを固め、各劇団の傾向にあったレッスンでクオリティーを更にあげていきます。
第3回	冬休み中の課題の選曲と練習ポイントの確認	冬休みの間にクリアすべき点を見極め、自分の弱点を克服、強化する曲を選曲し、レッスンしていきます。
第4回	あなたの弱点を克服するためには①	在学中に自分の弱点を克服します。そのための練習方法、コツとことん学び、自分に落とし込む方法を学びます。
第5回	あなたの弱点を克服するためには②	自分の弱点を克服し、更にブラッシュアップし、不得意だった楽曲に再挑戦してレベルアップしていきましょう。
第6回	秋学期末試験曲で総合力をアップ	今年度、または2年間で勉強した楽曲から1曲を選曲し試験曲とし、クリアする目標を立ててレッスンします。
第7回	秋学期末試験曲のブラッシュアップ	学習した内容を総合的にコントロールして、集中力を持って人前で実力を出し、歌いられるようにレッスンします。
第8回	秋学期末歌唱試験の実施とフィードバック	先生からのフィードバックで自分のアピールポイントや弱点を理解し、これからの将来に向けての勉強に繋がります。

学期末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスン内での積み重ね、理解力、積極性や向上心を測ります。また、試験点は、2年間で学習した全てが仕事として成立するレベルまで到達しているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	クラシックバレエⅢ	高橋利枝

科目概要

基本的なエクササイズを繰り返しながら、正しい身体の使い方を身に付けて、より高度なテクニックを習得してゆきます。手先、足先、目線などの細かい部分を意識して全身で踊ることを習慣付けていきます。

到達目標

基本的な姿勢、身体の使い方を考えながら、テクニックの向上を目指しているかどうか確認します。曲の感じをつかみ取り、動きのアクセントを考え、効果的な動き方を研究できているかどうかチェックします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	1年次に学んだ基本事項を確認し、より高度なテクニックの習得の仕方と心構えを考えます。
第2回	バーレッスン&センターレッスンの目標	怪我を未然に防いで身体を整えたり、強化してゆくバーレッスンの大切さとそれを活かしたセンターレッスンの方法を学びます。
第3回	オーディエンスを意識した動き方	舞台上における8つの方向と身体の方角＋空間を意識した表現の方法を考えながらトレーニングをしてゆきます。
第4回	回転技の強化①	ピルエット(アン・ドゥオール／アン・ドゥダン)ダブル以上回れるようになるポイントを理解し、軸足の引き上げと目線に気をつけ挑戦します。
第5回	回転技の強化②	アチチュード・トゥールやアラベスク・トゥールなど、より高度な回転のテクニックに挑戦し、素早い重心の運び方を身につけます。
第6回	アレグロの動き①	アッサンブレ、ジュテ、パ・ドゥ・シャ等の速い動きの組み合わせを行う事で、脚のターン・アウトと身体の芯をしっかり保つことを学びます。
第7回	アレグロの動き②	シソンヌ・フェルメ／シソンヌ・ウーヴェルトの違い、アレグロの組み合わせを引き続き習得します。ピルエットの組み合わせも確認します。

クォーター末試験評価方法

バーレッスンとセンターレッスンを通して基本事項の確認をします。ピルエットのダブルターンやアチチュード・ターンなどのレベルアップしたテクニックを含めたコンビネーションを行い、身体のコントロールができているか、またアレグロの動きのための身体の引き上げと重心移動がスムーズに行えるか確認します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グランワルツ①	ジュテ・アン・トゥールナン、回りながら跳ぶテクニックに挑戦します。
第2回	グランワルツ②	ジュテ・アン・トゥールナン、回りながら跳ぶテクニックを連続して行うことに挑戦します。
第3回	連続した回転技	ピケ・トゥール、シエネ、ピケ・ストウニューなどを組み合わせた連続した移動する動きを目線のつけ方に気をつけて行います。
第4回	表現の幅を広げる①	アッサンブレ、タン・ルヴェ、などのスモールジャンプの組み合わせを行うことで、身体の引き上げと素早い体重移動などを身に付けます。
第5回	表現の幅を広げる②	アントルシャ(ロワイヤル／トロワ／カトル／サンク／シス)の仕組みを覚え、より高く跳ぶための身体の引き上げを覚えます。
第6回	マイムについて	バレエ作品中の演技に注目して、マイムの紹介をします。作品を観る時の演技(アームスの動き)のポイントなども考えます。
第7回	舞台上での在り方	舞台上での在り方、オーディションでの在り方を考え、観せ方を研究していきます。
第8回	グランワルツと連続したターン	大きな跳躍、連続して行うターンなどの組み合わせをリズムを感じてメリハリをつけた動きが出来ているかどうか確認します。

学期末試験評価方法

バーレッスンとセンターレッスンを通して基本事項の確認をします。身体をフルに使ったグランワルツのコンビネーションを習得し、曲の感じをつかみ取り、それに合った動き方ができているかどうかを評価してゆきます。試験30% 出席点40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	クラシックバレエⅣ	高橋利枝

科目概要

習得したクラシックバレエの技術をダンス全般に応用し、活かしてゆく力を身につけていきます。常に舞台上での在り方を考え、外部のオーディションを意識し、安定したテクニックを提示出来るように研究していきましょう。

到達目標

センターレッスンでのアダージョからピルエットコンビネーション、スモールジャンプ、アレグロの動き、グラン・ワルツの大きなジャンプまでの全ての動きを網羅して行うことができるようにします。フエッテ・アン・トゥールナン等の連続した回転も行い、テクニックの強化を測ります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2年間のまとめ、卒業制作に向けて①	より高度なテクニックを習得するために必要な基本事項を、もう一度確認しながら進めていきます。さらなる集中力を養いましょう。
第2回	見せ場を作る／回転①	ピルエットコンビネーションの様々なパターンを行うことで、より確かなテクニックの確立を目指します。
第3回	見せ場を作る／回転②	ピルエット・アラ・スゴンド、グラン・フエッテ・アン・トゥールナンに挑戦し、目線や使い方、軸足と上体を強く保つことを覚えます。
第4回	見せ場を作る／ミドルジャンプ①	パロネ、プリゼ、カブリオール等のミドルジャンプに挑戦し、身体を引き上げ、脚のターンアウトを保つことを身につけます。
第5回	見せ場を作る／ミドルジャンプ②	トゥール・アン・レール、ジュテ・パッセ等のミドルジャンプの組み合わせに挑戦していきます。
第6回	グランワルツ応用①	ソ・ドゥ・バスク、ファイ・アッサンブレ、フエッテ(ジャンプ)を軽く見えるように工夫しながら跳躍します。
第7回	グランワルツ応用②	動きに合った音楽の効果的な使い方、アクセントのつけ方、ダイナミックに動くための身体の使い方ができているかどうか確認します。

クォーター末試験評価方法

引き続き基本事項を確認しながら、より難度の高いテクニックをまとめることができているかどうか確かめていきましょう。音楽に合わせた無理無駄の無い動きと、各自のパワーを最大限に出したダイナミックな動きが身についているか評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業制作に向けて②	引き続き基本的な身体の使い方を確認し、動きの質を考えながら踊ることの大切さを身につけていきます。
第2回	動きに色をつける	男女共に様々な動きの質を考え、女性らしい柔らかな動き、男性的な力強い動きを習得します。
第3回	キャラクターダンス①	民族舞踊から派生したステップを学びます。ポルカ、ワルツなど、ミュージカルナンバーで多用されるステップを2人組で行います。
第4回	キャラクターダンス②	引き続き民族舞踊から派生したステップを学びます。マズルカステップにも挑戦します。
第5回	コンビネーションを踊る①	アダージョ、ワルツコンビネーション、アレグロコンビネーション、速さの異なる動きの特徴を考えて踊ります。
第6回	コンビネーションを踊る②	グランワルツのコンビネーション(3拍子)、トゥールのコンビネーション(2拍子)を音を感じて踊ります。
第7回	2年間の総合確認①	音楽を全身で感じ、舞台の立った時のことを想像して、トレーニングを重ねる重要性を考えます。
第8回	2年間の総合確認②	基本事項を忘れず、各自の特性を活かした動き方を研究できているかどうか、総合的に評価します。

学期末試験評価方法

2年間のまとめとして習得した正しい身体の使い方、テクニックと表現力を発表しましょう。大ホールの舞台に立つことを想像して、オーディエンスを意識した立ち姿、表情、内からの動き方ができているか確認します。外部のオーディションに臆することなくチャレンジしてゆきましょう。
試験30% 出席点40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	シアターダンスⅢ	井上 仁司

科目概要

◆1年次に引き続きブロードウェイ・ミュージカルの概要や振付、演出方法を学びます。
 ◆基礎ルーティンでは「歌」「演技」などの表現要素が増えていきますから、短い時間の中での集中力が大事になります。この瞬発力は実際のオーディションでも役に立つので、普段の授業から意識して大事にしていきます。

到達目標

◆ブロードウェイ・ミュージカル作品の概要がしっかりと把握できているか、どうかを見ます。
 ◆把握できた「知識」が説明できるのかどうかも見ます。授業の中で質問などされるとおもいます。
 ◆基礎ルーティンの「歌」「演技」などの表現要素が増えていきますが、ただ覚えるだけでなくそれを実践できるように心がけます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	新しい基礎ルーティンを理解して実行する。説明やデモンストレーションをよく観察し、理解できないところは質問します。
第2回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑯	ミュージカルの名作「ウエストサイド・ストーリー」からピーター・ジェナンローの考案したステップを学びます。
第3回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑰	細かいステップが刻めるようになったら次は長いダンスナンバーに挑戦です。ハードなナンバーなので気を抜かないよう心掛けます。
第4回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑱	振付をマスターしながら、コスチュームも意識して振付の体の使い方を再確認していきます。
第5回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑲	「ダンシン」について説明します。ジュークボックス・ミュージカル、カタログ・ミュージカルなどの専門用語が多く出てきます。
第6回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑳	「ダンシン」からダンスナンバーの振付を実践してみましょう。かなり高度な技術が要求されるので集中して行います。
第7回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉑	構成やフォーメーションが崩れないように空間を意識しながら、アクティングエリアでのスペーシングを学びます。

クォーター末試験評価方法

◆知識について配布した資料プリントからペーパーテストを実施します。時間制限があります。
 ◆実技については実技テストの実施。基礎ルーティンの正確さや課題として出されたコンビネーションがどれだけ正確にできるかまたは、個々のキャラクターがどのような表現をするのかが大きなポイントになります、普段からの研究が大切です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉒	「ドリームガールズ」について概要を説明します。マイケル・ピーターズの振付の特徴なども紹介していきます。
第2回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉓	「ドリームガールズ」からミュージカルナンバーを学びます。課題となつている楽曲の唄もマスターします。
第3回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉔	構成やフォーメーションを正確に理解して実践していきます。ナンバーリングなども確認していきます。
第4回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉕	グループに分かれて発表してもらいます。ほかの人の演技もよく観察してよいところは自分に取り入れます。
第5回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉖	ミュージカル作品「コパカバーナ」の概要を説明します。ラテンダンスの種類とアイソレーションの関係について説明します。
第6回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉗	ラテンダンスという民族舞踊がショーダンスアレンジされると体のさばき方も違ってきます。特に足の動きに注目します。
第7回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉘	ダンシングフルというショーダンスナンバーを練習しながら、足の運びを学んで行きます。
第8回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル㉙	秋の定期公演でミュージカルナンバー作品を発表します。リハーサルは自分で動画など撮って研究します。

学期末試験評価方法

◆秋の定期公演で発表を評価します。振付からリハーサルまでの間にどれだけ体を使った表現が大きくできるかを見ますから、普段の授業からの積み重ねが大切になります。
 ◆舞台衣装、ヘアメイクなども重要な要素となりますから、日々の練習、研究が大事になります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	シアターダンスⅣ	井上 仁司

科目概要

◆2年間の集大成となります。これまで積み重ねてきた技術、知識をさらに磨き上げます。
 ◆ブロードウェイミュージカルの到達点であるトニー賞受賞作品にスポットを当て、作品研究を進めながら理解を深めていきます。そしてこれまで以上により高度なテクニックにアプローチして卒業までの間に技術、知識を高めていきます。

到達目標

◆トニー賞作品の概要がしっかりと把握できているか、どうかを見ます。
 ◆作品の出演者はもちろん、クリエイティブスタッフなど制作者の同時記憶できているかを見ます。
 ◆基礎ルーティンの「歌」「演技」などの表現要素が増えていきますが、より確実なものへステップアップできたことを実感します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	トニー賞受賞作品①	第一回受賞作品「キスミーケイト」についての作品概要を説明します。これまで学習したことの繋がりも検証します。
第2回	トニー賞受賞作品②	ミュージカルの名作「キスミーケイト」からトゥーダンホットのステージングを学びます。
第3回	トニー賞受賞作品③	それぞれのキャラクターを理解して振付のストーリーを表現するためには何が必要なのか考えながら振付を進行します。
第4回	トニー賞受賞作品④	名作「フォーティーセカンドストリート」について概要を説明します。デビッド、メリックというプロデューサーを紹介します。
第5回	トニー賞受賞作品⑤	「フォーティーセカンドストリートからオープニングのダンスナンバー」を学びます。タップダンスになります。
第6回	トニー賞受賞作品⑥	シーンを理解したダンス表現をするためには、何が必要なのかもう一度よく考えて振付を実践します。
第7回	トニー賞受賞作品⑦	実技試験を行います。課題は「フォーティーセカンドストリート」のオープニングシーンです。

クォーター末試験評価方法

◆知識について配布した資料プリントからペーパーテストを実施します。時間制限があります。
 ◆実技については実技テストの実施。基礎ルーティンの正確さや課題として出されたコンビネーションがどれだけ正確にできるかまたは、個々のキャラクターがどのような表現をするのかが大きなポイントになります、これまでの積み重ねが必要となります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近代のブロードウェイ・ミュージカル①	オールブラックキャストのミュージカル「ザ・ウィズ」について概要を学びます。クインシー・ジョーンズの音楽を解説します。
第2回	近代のブロードウェイ・ミュージカル②	ソウルミュージックを使ったダンスステップを何度も反復練習してほかのジャンルとの違いを研究します。
第3回	近代のブロードウェイ・ミュージカル③	リバイバルミュージカル作品「ガイズアンドドールズ」の概要を説明します。クラブゲームを解説します。
第4回	近代のブロードウェイ・ミュージカル④	コミカルな動きを取り入れたマイケル・キッドの振付をクラブシューターダンスから学びます。
第5回	集大成発表の準備	2年間の集大成として年度末の卒業公演で発表する演目の準備に入っていきます。キャストイングオーディションを行います。
第6回	演目リハーサル・振付	選ばれた演目「ミュージカルナンバー」「ダンスナンバー」の今日すていぐを行い振付を進行していきます。
第7回	フォーメーションシートの作成	各ナンバーのフォーメーションやマイク香盤が決定したらフォーメーションシート作りを行います。
第8回	集大成の発表	プランに基づいた衣装が容易で来たら、合わせてヘアメイクもアレンジしていきます。

学期末試験評価方法

◆2年間の集大成として卒業公演を実施します。リハーサル、本番での実演が評価の対象となります。ダンステクニックだけではなく、衣装やヘアメイク、道具などのさばき方なども含めた大きな総合評価となります。授業やリハーサルには欠席することなく参加し、2年間で培った力を外部の大きなホールでどれだけ大きな存在感を出せるか学生最後の課題となります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	タップダンスⅢ	生坂 昌子

科目概要

もう1度基本ステップを確認し、見た目も美しく、音も正確なリズムを打てるように意識してみましょ。そして、音楽と自分が出している音がきちんと合っているかよく聞き、テンポに乗っていきけるように身体で音を出している感覚を覚え、ダンスの中に自然に取り入れられるように練習します。

到達目標

音楽と自分のステップが一体化し、演奏しながら踊る事が出来るようになる事を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音を聞く意識	もう1度、ちゃんと音楽と自分が出している音を聞いているかを意識してみましょ。
第2回	身体でリズムを取る	足だけでなく、身体を使ってリズムを取るよう意識します。
第3回	速く動かす	同じステップでより速い音楽に合わせて踏めるように練習します。
第4回	クロスフロア①	シャッフルとトウの組み合わせでターンを練習します。身体の軸を真っ直ぐにキープする感覚を覚えます。
第5回	テクニック①	ブルバック(ピックアップ)の練習します。つま先をしっかり押さえてからリラックスするタイミングを覚えます。
第6回	テクニック②	ジャックナイフの練習。足の出し方、タイミングを覚えます。
第7回	試験	今まで習得したステップで短い振りを踊ってみましょ。

クォーター末試験評価方法

基本ステップを確実にマスターしているかどうか、音を意識出来ているかどうかを評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テクニック③	振り付けで使えるようなテクニック系のステップの組み合わせを練習します。
第2回	クロスフロア②	より速い音楽に合わせて踏んでみます。
第3回	クロスフロア③	カウントを変化させて踏んでみます。
第4回	ヒールタップ	ヒールを使ったステップのバリエーションを踏んでみます。
第5回	リフ、スカッフ	細かいリズムを打つ練習します。
第6回	コンビネーション①	色々なステップを使った振り付けを踊ります。
第7回	コンビネーション②	上半身の動きも意識して踏んでみましょ。
第8回	試験	1曲の振付の1部を踊ってみましょ。

学期末試験評価方法

見た目も美しく、正確なリズムがキチンと聞こえるかを評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	タップダンスⅣ	生坂 昌子

科目概要

タップダンスを踊りの表現の1つとして、ダンスの中で違和感なく使えるように、足以外の手や上半身、表情まで意識してステップを踏んでみましょう。更に踊っている中で、自然とステップが出てくるようになると、表現の手段としてタップが強い武器になると思います。

到達目標

ダンスの中で自然と違和感なくタップのステップが踏めるように、身体でリズムを感じる事が出来るようになりましょう。踊っている中でリズムを演奏出来る事を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クランプロールターン	クランプロールをしながら回転するステップを練習します。
第2回	クロスフロア④	細かいリズムを理解して足を動かせるように練習します。
第3回	クロスフロア⑤	テクニック系ステップを踏みながら、前や後ろに進んでいく練習します。
第4回	タイムステップ	トップのカウントを変えて踏んでみます。
第5回	コンビネーション③	細かいリズムのステップを入れて踊ります。
第6回	コンビネーション④	音の強弱を意識して踊ってみます。
第7回	試験	1曲の作品の振付を踊ります。

クォーター末試験評価方法

音楽のニュアンスも理解して、また音楽に振り回されず、美しくリズムも正確に踊れているかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クロスフロア⑥	同じリズムを色異なる色々なステップで踏んでみます。
第2回	クロスフロア⑦	同じステップを色々な音楽で踏んでみます。
第3回	コンビネーション⑤	テクニック系ステップを含む振付を踊ります。
第4回	コンビネーション⑥	テクニック系ステップを含む振付を踊ります。
第5回	コンビネーション⑦	色々なニュアンスの音楽で振付を踊ります。
第6回	コンビネーション⑧	色々なニュアンスの音楽で振付を踊ります。
第7回	コンビネーション⑨	自分でステップを考えて振り付けの中にアドリブを入れてみましょう。
第8回	試験	今まで習得した事を活かして1曲の作品の振付を踊ります。

学期末試験評価方法

基本を大事にしつつ、表現としてのタップを体現出来ているか、またそれを自ら楽しめているかを評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	シーンスタディⅢ	大谷美智浩

科目概要

前期は1学年で習得した基礎技術をさらに磨き上げるため、既成ミュージカルの中からワンシーンを抜粋し、歌・ダンス・演技の三点から総合的に学びます。
後期は、バリオホールで上演するオリジナルミュージカルの稽古を通して、総合的なスキルアップを目指します。

到達目標

各人で「待つ」から「準備する」への意識改革をさらに続行し、自分自身へのマネジメント能力(セルフマネジメント:自己管理)を強化します。その上でシーンを把握しシチュエーションをイメージして、歌唱・演技・ダンスの課題を正確にクリアしたパフォーマンスを目標に定めます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセース・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセースを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第6回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	第1クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、クォーター末試験とします。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

各自の意識改革やセルフマネジメントを重視し、その上で個人スキルのレベルアップの度合いや、それぞれの苦手な課題へのアプローチ方法とその成果、さらに授業態度・出席状況などを加味して総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バリオ公演リハーサル①	歌唱指導を中心に、歌入り読み合わせや基礎的な振り付けを行って、作品への理解をさらに深めます。
第2回	バリオ公演リハーサル②	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	バリオ公演リハーサル③	ブロック①の歌唱指導と振り付けを行い、その反復練習に演技を交えて、各要素を正確にインプットしていきます。
第4回	バリオ公演リハーサル④	ブロック②の歌唱指導と振り付けを行い、その反復練習に演技を交えて、各要素を正確にインプットしていきます。
第5回	バリオ公演リハーサル⑤	ブロック③の歌唱指導と振り付けを行い、その反復練習に演技を交えて、各要素を正確にインプットしていきます。
第6回	バリオ公演リハーサル⑥	ブロック④の歌唱指導と振り付けを行い、その反復練習に演技を交えて、各要素を正確にインプットしていきます。
第7回	バリオ公演リハーサル⑦	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	バリオ公演リハーサル⑧通し稽古	期末テストとしてA・B両班の通し稽古を行い、それぞれの配役や役割に応じて個人評価します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では与えられた課題の他に自主性と自由な発想も重視します。さらに、チーム内での役割認識と貢献度、集団作業としての「創作」への関わり方などを審査し、そこに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	シーンスタディⅣ	大谷美智浩

科目概要

外部オーディションや卒業後の進路についてしっかりと目標を定め、自己分析と個々の課題を明確にします。その上で、既成ミュージカルのワンシーンを抜粋し、もう一度稽古プロセスを再検証することで、ミュージカル学科卒業生としての知識・経験・スキル・心構えを磨きます。

到達目標

セルフマネジメントの強化と個人スキルのレベルアップは勿論、各自の個性と魅力を自分自身で発見して、人真似ではない「自分らしさ」を添えたパフォーマンスを目指し、ソロパートや台詞の有無に拘らない「シチュエーションの中での存在」について理解します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第6回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	第3クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、クォーター末試験とします。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

各自の意識改革を続行し、自分自身への「マネジメント能力」を強化します。その上で個人スキルのレベルアップは勿論、それぞれの苦手な課題へどうアプローチしたかや授業態度・出席状況などを、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	ビデオ撮影・視聴・合評会	中間発表として、チームで課題のワンシーンを演じ、撮影した映像を確認して、それぞれに意見交換します。
第6回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第7回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	発表(試験)	第4クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、学期末試験とします。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

2年間の総決算として、総合的な基本スキルのレベルを審査します。さらに「セルフマネジメント」や「自己発見」、ひいては将来の展望の有無など、ミュージカル学科卒業生として恥ずかしくない見識と心構えを総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	演技基礎Ⅲ	大谷美智浩

科目概要

前期は1学年の学習を基に、「マイワード」・「語頭アタック」・「スロースルー」・「クイックスルー」などのテクニックを使って長文モノローグを学習し、「活字の肉声化」への考察を更に深めます。後期は、バリオホール公演に向けての稽古を通して、「創造の過程」を総合的に学びます。

到達目標

「書かれた台詞」から脱却した「活字が肉声化された台詞」、つまりは活字から解放された演技を目指します。更に、様々なエクササイズを通して筋肉の解放と集中を再確認し、「自由でありながら抑制された演技」に対するアプローチを学んで表現の幅を広げます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エクササイズ① モノローグ①	「歩く」エクササイズを体験することで筋肉のメカニズムを体感し、モノローグブロック①のフレージングを行います。
第2回	エクササイズ② モノローグ②	「見る」エクササイズを体験することで筋肉のメカニズムを体感し、モノローグブロック②のフレージングを行います。
第3回	エクササイズ③ モノローグ③	「聴く」エクササイズを体験することで筋肉のメカニズムを体感し、モノローグブロック③のフレージングを行います。
第4回	エクササイズ④ モノローグ④	エクササイズの総まとめとして「無言劇」エクササイズを体験し、モノローグブロック④のフレージングを行います。
第5回	モノローグ⑤	「スロースルー」で筋肉の解放と集中を行い、「クイックスルー」で反応を確認して無駄な間を省きます。
第6回	モノローグ⑥	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認してそれぞれの課題を発表します。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では読解力を重要視します。ただ台詞を覚えるだけではなく、内容の理解度とその理解した内容を表現するための創意工夫、さらには筋肉の解放と集中を審査し、そこに授業態度・出席状況を加味して、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バリオオリジナル: 脚本分析①	オーディションによる配役の前に、様々な組み合わせでの読み合わせを行い、作品の世界観やテーマを確認します。
第2回	バリオオリジナル: 脚本分析②	オーディション前の組み合わせで、「語頭アタック」のフレージングを行いながら更に脚本の理解を深めます。
第3回	バリオオリジナル: 立ち稽古①	ブロック①を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第4回	バリオオリジナル: 立ち稽古②	ブロック②を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第5回	バリオオリジナル: 立ち稽古③	ブロック③を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第6回	バリオオリジナル: 立ち稽古④	ブロック④を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第7回	バリオオリジナル: 立ち稽古⑤	「スロースルー」で筋肉の解放と集中を行い、「クイックスルー」で反応を確認して無駄な間を省きます。
第8回	期末テスト	期末テストとしてA・B両班の通し稽古を行い、それぞれの配役や役割に応じて個人評価します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では与えられた課題へのアプローチの他に、自主性と自由な発想も重視します。さらに、集団作業としての「創作」への関わり方や意識の持ち方なども審査し、そこに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	演技基礎Ⅳ	大谷美智浩

科目概要

前期・後期ともに、2年間の総決算としてショートドラマを完成させます。
 まず前期は既成の脚本から抜粋してシーンを選び、数名のチームを編成して発表します。
 後期は個人個人でモノログドラマを構成・発表し、これらの課題を通して各自の個性と魅力を、新たに自己発見していきます。

到達目標

卒業後を見据え、舞台俳優としての心構えと基本スキルを習熟させます。2年間で学んだ「背面チェック」や「マイワード」、「語頭アタック」などのテクニックを使って刺激と反応の関係性やフレージングなどw今後の活動に必要なスキルを、さらに磨きあげて習得します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	脚本分析①作品決定	持ち寄ったテキストでチームと配役を決定し、読み合わせを行った後「マイワード」で粗立ち稽古を体験します。
第2回	脚本分析②フレージング	台詞を再確認して、言葉のニュアンスやエネルギーを考察し、音程・強弱・テンポの三要素に方向づけします。
第3回	立ち稽古①ミザンセース	チーム毎に位置関係を話し合い、道具の配置を含めたパワーバランスを考察して、イメージを深めます。
第4回	立ち稽古②スロースルー	スローモーションで通し稽古を行う事で、必要な筋肉の動きを実感し、筋肉の解放と集中を体験します。
第5回	立ち稽古③クイックスルー	スローで体感した筋肉の動きを、今度は倍速の速さで体験します。同時に台詞も早回しで行い、無駄な間を省いて行きます。
第6回	立ち稽古④通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認してそれぞれの課題を発表します。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%
 実技では春学期に学んだスキルの習得度を重視します。「活字の肉声化」の各スキルや「筋肉の解放と集中」に加え、「集団作業の創造」における役割認識と貢献度、さらに授業態度と出席状況を加味して総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	脚本分析①作品決定	各自で3分間のモノログドラマを選定し、稽古に入ります。ジャンルは不問、オリジナルドラマでも可です。
第2回	脚本分析②マイワード	言葉の始まりのイメージを再確認し、台詞を自分の言葉で言い換える「マイワード」テクニックをさらに深めます。
第3回	脚本分析③フレージング	台詞を文節に分けてその語頭に意識を向ける「語頭アタック」と、その文節へのニュアンスの込め方について再確認します。
第4回	立ち稽古①立ち稽古	シチュエーションをイメージし、「スロースルー」「クイックスルー」などのスキルを使って演技を掘り下げます。
第5回	立ち稽古②ビデオ撮影	各自で個別練習を重ね、中間発表として通し稽古を行い、それをビデオ撮影して記録します。
第6回	立ち稽古③ビデオ視聴・合評会	ビデオに記録した各人の通し稽古を視聴し、それぞれに意見交換をして各々のパフォーマンスを確認します。
第7回	立ち稽古④通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	期末テスト	刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認してそれぞれの課題を発表します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%
 「刺激と反応の関係」・「活字の肉声化」・「筋肉の解放と集中」など、2年間で学んだ基本スキルをどれだけ身に付けたかを審査します。さらに自分の殻を破る努力に授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォーカルアンサンブル II	若林 裕治

科目概要

ミュージカルには様々なジャンルの楽曲があり、発声方法もそのジャンルに合ったものが必要になります。2年次は、より正確により確実に自分のものにしていきましょう。勿論、楽曲の意図する表現法についても考えていきます。

到達目標

アンサンブル能力の向上に必要な知識や情報を理解して、自分で分析と判断をしながら歌唱表現を実践出来るパフォーマーを目指す。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	はじめに	課題曲① レガート唱法の確認を行いながら1人ずつチェックと助言。
第2回	周りの人の音を聞く	同じパートの音を聞き合う為に必要なスキルを身につける。聴き分ける耳を育てる。
第3回	他のパートにつられない！	違うパートの音を聞くコツについて。前回同様、聞き合う為のスキルを身につける。
第4回	コードや調の判定	課題曲② 音程を正確に歌う為に身につけたいものについて。覚えておく便利な調判定法。
第5回	やはり楽典は大切！	楽曲に対して理論的にアプローチを試みる。理論に裏付けられた音楽表現。
第6回	歌い込み	歌い込むことで出来ること、またその際に気をつけることについて。
第7回	発表形式の試験	クォーター末試験。数人ずつの歌唱発表

クォーター末試験評価方法

毎回のステップアップや到達度確認も評価の対象になっています。また発表では、音程のみならず、発声法の他にそれを使った表現力も評価の対象になりますので、失敗を恐れずに思い切り自分を表現しましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	移動ドでハモる？	ア・カペラへの挑戦、自分の音程を自分で確認する。移動ドを理解すると音取りが楽になる！
第2回	移動ドで広がる世界を考える	覚えると便利な移動ドのできることで、音楽の世界が広がる移動ド理論について考える。
第3回	純正律って？	ハモる為に必要な知識、平均律と純正律についての理解を深める。
第4回	チームワークが必要！	アンサンブルの醍醐味は、やはりチームワーク。一人では出来ないこと、一人でやらなければいけないこと。
第5回	良い声って何？	良い声って何か？楽曲に応じた良い声について考える。
第6回	より実践的なアンサンブル歌唱	より実践的に、本番を意識したアンサンブル表現。自分自身から発信する自分自身の表現。
第7回	ステージを意識する	見せ方、聞かせ方の研究。客観的に自分を捉えること。また、より精度を上げたアンサンブルを目指す。
第8回	前期のまとめ、歌唱試験	楽曲のトータルの完成度を評価する、学期末試験

学期末試験評価方法

音の確認、復習は各自が責任を持って行ってください。アンサンブル能力や歌唱力、表現力の裏付けとなる発声法等の理解度をトータルの評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブル Ⅲ	若林 裕治

科目概要

ミュージカルの歌唱は、ダンス等の動きを伴いながらも正確にそして表情豊かに歌うことが要求されます。秋学期は、今まで学んできたものの集大成として、より実践的なアンサンブルの考え方を学びます。

到達目標

ミュージカルのアンサンブルに必要な能力(音程とリズムを合わせるだけではなく、物語の状況や歌詞の内容からくるニュアンスと抑揚などシチュエーションに合った表現を伴った歌唱パフォーマンス)を身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の反省	春学期での成果と反省を踏まえて秋学期の目標を確認する。
第2回	音楽づくりについて	内容の濃い音楽稽古にする為に必要な情報を集める。時代背景や音楽のスタイルについて。
第3回	内容の把握と表現	シチュエーションに合った音楽表現、演じる役の心情を探る。
第4回	立ち稽古へ	アンサンブルの基礎の上に成り立つ歌唱表現を身体表現へ繋げる。
第5回	演じることは？	実際にプロの現場と同じような、立ち稽古を体験しよう。
第6回	観る側の目線とは？	自分を客観的に捉えることの大切さを考えよう。客の目線でどう見える？
第7回	クォーター末試験	発表形式でのアンサンブル歌唱試験。

クォーター末試験評価方法

歌唱力、アンサンブル能力等を十分に生かしたステージを作るには、的確な内容把握や時代背景等も重要になってきます。最終クォーターにつなげる為にも着実に自分のものにしていきましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前クォーターの反省	前クォーターの反省と新しい目標。プロの現場で通用するアンサンブル能力を身につけるよう！
第2回	音楽の設計図づくり	音楽稽古①。各自の音楽表現プランを作成。ディスカッション。そして、予習・復習しっかり！
第3回	音楽表現づくり	音楽稽古②(最終)。仕上がりでの正確さの追求！加えて音楽稽古もスピードもアップ。
第4回	身体表現法	立ち稽古①、体で表現しよう。自分なりの意見を持つことの大切さ。
第5回	内容把握	立ち稽古②、テキストの朗読・表現の確認。
第6回	細かなところにも気を付けて歌い込み	歌い込みでより精度をあげよう。慣れは禁物！毎回新鮮な気持ちで！
第7回	悔いの無いように！	もう1度よく見直そう！通し稽古。緊張感を持続させる。
第8回	一年の総まとめ(集大成)	本番形式での発表、総合的にチェック。

学期末試験評価方法

舞台の上には様々なアンサンブルがあります。それらをミュージカルナンバーを題材に乗り越える能力を身に付け、各自の音楽ジャンルで生かす事がこの授業の最大の目標です。その成果を発表で見せて下さい。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	テーマパークパフォーマンスⅢ	菅未来

科目概要

テーマパークエンターテイナーとは、数あるジャンルのダンスや歌・芝居をオールマイティーにこなすことが、必要となります。テーマパークでは様々なテーマに沿ってショーやパレード・グリーティングの中での登場人物としてパフォーマンスする存在です。2年次は更に実際のテーマパークにおけるエンターテインメントスキルを学んでいきます。

到達目標

春学期ではグリーティングを学びます。ゲストに対してのプレゼンテーション・インビテーションを理解していきましょう。また、様々なジャンルのダンスナンバーのイメージを理解して表現しましょう。実際のテーマパークを想定して授業に臨みましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウェルカムグリーティング①	グループにわかれてゲスト役、キャラクター役、MC役を分担してグリーティングを行います。
第2回	ウェルカムグリーティング②	グループにわかれてゲスト役、キャラクター役、MC役を分担してグリーティングを行います。
第3回	ウェルカムグリーティング③	グループにわかれてゲスト役、キャラクター役、MC役を分担してグリーティングを行います。
第4回	スプリングショー①	スプリングショーで使われる曲のイメージを理解しながら振付を覚えます。
第5回	スプリングショー②	スプリングショーで使われる曲のイメージを理解しながら振付を踊ります。
第6回	スプリングショー③	スプリングショーの中での自分のポジションを覚えて曲のイメージ通りに踊ります。
第7回	テスト	クラスの中でグループを作り、スプリングショーのパフォーマンスを発表します。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常40%、テスト10%で算出します。毎回の授業を積極的に取り組んでどれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いたかを評価していきます。また、グループ発表などでの協調性や発言力も評価に繋がっていきます。しっかりと授業に取り組んでいきましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テーマパークダンス①	キャラクターの登場を迎えるようなオープニングナンバーの振付を覚えます。
第2回	テーマパークダンス②	キャラクターの登場を迎えるようなオープニングナンバーの振付を踊ります。
第3回	テーマパークダンス③	スタンダードなジャズナンバーの振付を覚えて踊ります。ジャズダンスのテクニックを学びます。
第4回	テーマパークダンス④	歌詞のある曲で歌詞のイメージをとらえた振付を歌を歌いながら踊ります。
第5回	サマーパレード①	サマーパレードで使用するラテンナンバーの振付を踊ります。ラテンのテクニックを学びます。
第6回	サマーパレード②	サマーパレードで使用するスウィングナンバーの振付を踊ります。スウィングのテクニックを学びます。
第7回	サマーパレード③	扇子やスティックなどの小道具を使って踊ります。小道具の扱い方を学びます。
第8回	テスト、発表	実際にテーマパークで使用された曲で歌詞を覚えて歌いながら振付を踊ります。春学期で学んだことのテストです。

学期末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。春学期の総括です。1年次に続きどれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いているかを評価していきます。しっかりと授業を理解して積極的に取り組んでいきましょう。また、実際のオーディションに向けて目標を立ててみましょう。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	テーマパークパフォーマンスⅣ	菅未来

科目概要

テーマパークエンターテイナーとはゲストから憧れられる存在である事です。キャラクターはテーマパークの顔・象徴であり、アトラクションや食事・買い物などと同じ一貫性のテーマである存在です。テーマパークの空間の雰囲気を壊さないためにダンス・歌・MCのスキルは必要になります。また、自己アピールもとても大切になります。

到達目標

3クォーター、4クォーターでは1年次に学んだことを更に深めてテーマパークエンターテイメントを学んでいきます。テーマパークで働きたい人にとっては正念場の時期になります。実際のオーディションを想定して授業に臨んでオーディションに備えましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハロウィン①	ハロウィンシーズンに使用されるナンバーの振付をイメージを理解しながら覚えます。
第2回	ハロウィン②	ハロウィンナンバーの振付を歌を歌いながらあわせて覚えて踊ります。
第3回	ハロウィン③	グループにわかれてハロウィンナンバーのフォーメーションを作って踊ります。
第4回	クリスマスショー①	クリスマスシーズンに使用される事の多いナンバーの振付を覚えます。
第5回	クリスマスショー②	クリスマスナンバーの歌詞を覚えて振付とあわせて踊ります。
第6回	クリスマスショー③	グループにわかれてクリスマスナンバーのフォーメーションを作って踊ります。
第7回	テスト	各グループごとにクリスマスナンバーのフォーメーションを作り、発表します。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。どれだけテーマパークパフォーマンスが身に付いているかを評価していきます。しっかりと授業を積極的に取り組んでいるのかも評価になります。また、グループにわかれての授業での協調性も評価に求められます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウィンターショー①	ウィンターショーで使用する曲や構成などショー全体の流れを理解しましょう。
第2回	ウィンターショー②	ウィンターショーの全体をイメージしながらナンバーの振付を覚えます。
第3回	ウィンターショー③	ウィンターショーのイメージソングを覚えて、振付とあわせて踊ります。
第4回	ウィンターショー④	ウィンターショーの中での自分のナンバーのポジションを覚えて踊ります。
第5回	ウィンターショー⑤	ウィンターショーで使用するコスチュームを着用して実際にナンバーを踊ります。
第6回	ウィンターショー⑥	ウィンターショーをタイムスケジュール通りに出来るか実際に通して踊ります。
第7回	ウィンターショー⑦	各ナンバーごとにチームで順番にウィンターショーをリハーサルしていきます。
第8回	テスト、発表	ウィンターショーをコスチュームを着用し、タイムスケジュール通りにパフォーマンスします。

学期末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。授業での積極的な取り組みが評価されます。どれだけテーマパークダンスが身に付いたかテストされます。年度の総括です。実際のオーディションに向けて目標を立てましょう。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヒップホップⅢ	山崎拓也

科目概要

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、ヒップホップダンスをベースにジャズダンスの要素を取り入れたヒップホップジャズも学んでいきジャンルの幅を広げていきます。

到達目標

純粋なレベルアップを目標とします。ヒップホップは得意だけどジャズは苦手、逆にヒップホップは苦手だけどジャズは得意、という事がなくなるようにそれぞれの特性をしっかりと掴み、踊りの幅を広げてジャンルにとらわれる事のないフレキシブルなダンサー像を作っていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング	2年生になっても基本的なところから見直していきます。リズムトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上をしていきます。
第2回	表現の確認	手、足の処理を中心に表現の仕方を確認していきます。流れが切れてしまう事なく動けるようにしていきます。
第3回	ステップ練習	上半身、下半身のバランスを考えて正確にステップを踏んでいきます。大きく動いても暴れて見えないようにしていきます。
第4回	コンビネーション①	いかに早く、手先、足の向きなど正確に与えられた振付の意図を理解して覚える力をつけていきます。
第5回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたら流れが止まることなく、綺麗な動き、綺麗なダンスを意識して表現できるようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	手、腕、肩、首の傾き、顔の角度など一つ一つを大事にし尚且つ大きく踊る為はどうするか研究していきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。基礎能力が上がっているかの確認もしていきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
振付に対する正確さをポイントとして見ていきます。また、ダイナミックに踊る事が出来ているか、音楽をしっかりと聴いて踊っているか、などコンビネーション全体を評価の対象として見ていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	HIPHOP JAZZについて	アーティストのバックダンサーがよく踊っているジャンルです。HIPHOPとの違いを知って踊り分けをしていきます。
第2回	イントロダクション①	体の使い方を覚えていきます。基本的には一緒ですがジャズの要素も入ってきます。
第3回	イントロダクション②	表現方法を覚えていきます。JAZZの要素を取り入れて繊細に踊ることを心掛けていきます。
第4回	イントロダクション③	アクセントの取り方を覚えていきます。HIPHOPの取り方とは違うの使い分けが出来るようにしていきます。
第5回	コンビネーション①	HIPHOP JAZZの振り付けを覚える力をつけていきます。ただ覚えるのではなく特徴を掴む事が大切です。
第6回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたらHIPHOPかJAZZのどちらかに偏った踊り方にならないように気をつけます。
第7回	コンビネーション③	音に対するアプローチや曲のイメージ、感情表現も考えながら踊っていきます。もちろんジャンルも考えながらです。
第8回	試験(学期末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。HIPHOP JAZZの特性を理解して表現していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
「HIPHOP JAZZ」の踊り方を理解してHIPHOPとの違いを表現できているかをポイントとします。振付を正確に取り、曲の表現や振付の意図を理解しているかもポイントとします。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヒップホップⅣ	山崎拓也

科目概要

2年間の集大成である「卒業公演」に向けて体作りを継続し、体の使い方、振りの覚え方、表現の仕方など、全てにおいてバランスよくレベルアップをしていきます。自分の苦手な部分から逃げず、正面からぶつかり克服をしていきます。

到達目標

細かいところまで自分の動きを確認していき無駄な動きが無く、尚且つオリジナリティのあるダンスを出来るようになっていきます。卒業公演の振付はリハーサルを想定して行います。振りを早く自分の物にして踊り込みをしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング・応用	今一度自分のリズム取りの見直しをしてトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上と応用を覚えます。
第2回	表現の確認・応用	表現の仕方を確認していきます。制限を設けても自分で与えられた表現を出せるか研究していきます。
第3回	ステップ練習・応用	1年生からここまでで習ってきたステップの確認とそこからのパリエーションを研究していきます。正確なリズムも考えながら行っていきます。
第4回	コンビネーション①	どのようにすれば振付を覚えるスピードを上げられるか覚え方の工夫を考えて振り取りに臨みます。
第5回	コンビネーション②	振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	体の全ての箇所神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表します。全身を使って振付を覚えて細かいところまで見落とさないようにします。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
卒業公演の振付に入る前の最終確認と考え、ここまでで習ってきた体の使い方、音楽の表現、振付の意図を理解しているかをポイントとします。もちろん正確に踊ることを大前提とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業公演①作品イメージ	振付に入る前に振付と曲のイメージを伝えます。そこからイメージを膨らませていき振付に入っていきます。
第2回	卒業公演②振付	リハーサルとして行うので少ない振り写しで素早く正確に振付を覚えて細かいところまでこだわっていきます。
第3回	卒業公演③振付	手の出し方や角度まで細かくチェックしていきます。自分の形を鏡で確認をして鏡無しでも動かしているか確認していきます。
第4回	卒業公演④振付	全員で振りの確認をしていきます。手の出し方や角度が全員で揃っているか確認していきます。
第5回	卒業公演⑤踊り込み	作品の踊り込みをしていきます。出来ない箇所が無くなるまで繰り返し練習を行い完成度を上げていきます。
第6回	まとめ	2年間で学んだ事を作品に反映させていきます。また全員で作品に対するモチベーションを上げて気持ちを高めていきます。
第7回	最終確認	衣装を着て全員で踊り、動画撮影をして客観的に見て足りないところ発見して直しを行います。
第8回	発表(学期末試験)	卒業公演の作品を踊ります。最後の試験なので悔いのないように踊りきるようにします。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
2年間で学んできた全ての事を理解して実力として反映できているかをポイントとしていきます。また卒業公演の作品の中で全員と協力し合い、作品の完成度を上げていく努力を行っていたかもポイントとします。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	コンテンポラリーダンス I	高橋利枝

科目概要

コンテンポラリーダンスと言われる、現代的な動きを取り入れた自由な表現方法を生み出すテクニックです。上体を自由に使いながら、フロアでの動きも取り入れクラシックバレエとは異なるテクニックを身につけていきます。春学期はマーサ・グラハムの基本エクササイズを中心に身体の芯を感じた動き方を研究します。

到達目標

自由な表現を生み出すためエクササイズを通して強い身体を育てていきます。動きの原点のコントラクションとリリースの繰り返しであることを体感して、自由に動くことの楽しさを感じていきましょう。インプロヴィゼーション(即興)に積極的に取り組みましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	コンテンポラリーダンスクラスを受講するにあたっての心構えと授業中の注意事項を確認していきます。
第2回	ロール・アップ+ハイ・アーチ	グラハムテクニックの基本のフロアエクササイズを行い、上体の使い方を覚えます。
第3回	コントラクション+リリース	グラハムテクニックの基本のフロア+センターでのエクササイズから、上体の使い方と呼吸法、パラレル、イン、アウトを使い分けていきます。
第4回	フラットバック	背中での使い方に注目して、まっすぐな背中とカーブとハイ・アーチの作り方を習得し、呼吸の仕方と動きの関係性も考えます。
第5回	トリプル・ステップス①	3拍子で歩く基本エクササイズを行います。上体をしっかり保ったまま、全てのスタンスを広く使って進みます。
第6回	トリプル・ステップス②	引き続きトリプル・ステップスのエクササイズとその変形、歩く、揺れる、上体をつけて大きく動きます。
第7回	トリプル・ステップスのコンビネーション	トリプル・ステップスにフロアを使った動きをプラスして、リズムを感じた自然な動きが身につくかどうか確認します。

クォーター末試験評価方法

マーサ・グラハムの基本エクササイズのルーティンワークの目的を理解しながら、トレーニングを積み重ねているかどうかを確認します。全てのダンスの基本である呼吸の仕方、コントラクションとリリースを自然に取り入れて身体の芯を感じて、中心から大きく動いているかどうかみてゆきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スモール・ジャンプ	両足又は片足踏み切りからの小さなジャンプの種類を知り、シノンヌ、アッサンブレの変形や上体も使ったジャンプにも挑戦していきます。
第2回	ミドル・ジャンプ/ビック・ジャンプ	グラン・ジュテ、アチチュード・ジャンプ、アラ・スゴンドのジャンプなど空間を感じて大きな跳躍を行います。
第3回	回転技①	様々なピルエットに挑戦します。プリエをしたままターン、上体をつけるターン、上半身と下半身タイミングを変化させたターンを行います。
第4回	回転技②	上体をつけたアチチュード・ターンやアラバスク・ターン、連続した回転のシェネやピケ・ターンの変形を習得します。
第5回	インプロヴィゼーション①	テーマを決めて、動きを創作してみます。身体のひとつのパートから派生する動きや、即興に挑戦します。
第6回	インプロヴィゼーション②	2人組でのお互いの力を有効に使った動き方、リフトやサポートの仕方を学んでいきます。
第7回	コンビネーション	上体やアームスを自由に使った動き、ターン、ジャンプ、フロアワークを組み合わせて力強い動きと柔らかな動きを創り出します。
第8回	コンビネーション発表	グラハムテクニックのまとめとしてコントラクションとリリース、流れるようなフロアワークを使った動きのコンビネーションを発表します。

学期末試験評価方法

クラシックバレエと共通する点と異なる身体の使い方、オフバランスやフロアワークの方法を理解して体現することができているかどうか確認します。身体を隅々まで使い、空間とリズムを感じエネルギーを持ち続けた動きと各自の即興的な動きを習得しているか評価します。試験30% 出席的40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	コンテンポラリーダンスⅡ	高橋利枝

科目概要

コンテンポラリーダンスの自由な表現を生み出すダンステクニックを学んでゆきます。秋学期はマース・カニングハムの基本エクササイズを中心に伸びやかでスムーズな動き方を研究し、卒業公演に向けてテクニックの確立と表現の幅を広げてゆきましょう。

到達目標

自由な表現を生み出すために動きの動線を研究し体現してゆきます。また作品を踊るにあたってテーマを考え、身体を隅々まで使った効果的な動き方、舞台上での在り方を各々が発見できることが大切です。踊るだけでなく、舞台上の構成も研究しましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	カニングハムの基本エクササイズについて	カニングハムテクニックの特徴と身体の使い方を学びます。
第2回	ロールダウン+ロールアップ	通常のストレッチとは異なる身体の使い方を覚えましょう。
第3回	ストレッチ/フロアーワーク	身体の中心から動くためのストレッチの方法と身体の芯を感じた動き方を知り、エクササイズを覚えていきます。
第4回	振り子運動	アームス+上体の動きとステップの関係性を考え、スイングを取り入れた自然な動きを身に付けるようにしましょう。
第5回	スモールジャンプ	身体の芯を保ちながら、ゆっくりなジャンプ、速いジャンプ、様々な種類の跳躍に挑戦します。
第6回	ビックジャンプ	腰の引き上げ方と床の使い方を考え、グラン・バドゥ・シャの変形やフラット・バックを保ったままのジャンプなどを身に付けます。
第7回	トリプル・ステップス	シャッセから始まる3拍子のステップ、上体のカーブの作り方とリリースの動きの組み合わせを取り入れたコンビネーションを踊ります。

クォーター末試験評価方法

マース・カニングハムの基本エクササイズのルーティンワークの目的を理解しながら、トレーニングを積み重ねているかどうか確認します。動きの流れを振り子運動を基にして、スムーズな体重移動を使って踊ることができているかどうか評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業制作に向けて①	コンビネーションを覚え、動き方ひとつひとつを発展させてみます。動きのヴァリエーションを増やすトレーニングをします。
第2回	卒業制作に向けて②	動きと共に舞台上の踊る方向を変えたり、踊り始めのタイミングを変えたり等、ステージングの作り方の基本を学びます。
第3回	卒業制作①	振り付けを覚え、テーマに沿った動き方、表現方法を考えていきます。
第4回	卒業制作②	音の使い方、動きのアクセントを考え、効果的な見せ方を研究し、表現力も付けてゆきます。
第5回	卒業制作③	振り付けを再確認し、テクニックを確立します。舞台空間をイメージして踊ることを身に付けます。
第6回	卒業制作④	作品を通して個々の特性を活かした動き方を考えます。各自の良さを活かして、さらなるクオリティの向上を目指します。
第7回	オーディションへの対応力	作品のリハーサルを引き続き行います。それと共に外部のオーディションに必要な対応力を養います。
第8回	1年間の総合確認	1年間のまとめとして舞台上での存在感の出し方、テクニックの確立と豊かな表現方法を発表することができるかどうか確認します。

学期末試験評価方法

1年間のまとめとしてグラハムテクニック、カニングハムテクニックを基にした全身を使った自由で大きな動き方ができているかどうか、コンビネーションや作品をまとめる力、即興に対応する力がついてきているか確認します。外部のオーディションに臆することなく挑戦してゆきましょう。試験30% 出席点40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	演技研究 I	大谷美智浩

科目概要

前期はチームに分かれて、週ごとに異なるテーマでショートドラマを創作します。与えられたシチュエーションではなく、自分たちで世界を創り上げていく「創作のプロセス」を体験します。後期は、バリオホール公演に向けての稽古を通して、「舞台創造の過程」を総合的に学びます。

到達目標

エチュードやオリジナルミュージカルの創作を通して、テーマとストーリーの関係、その中での台詞と動作の意味について考察を深め、演技のスキルアップを目指します。またオリジナルドラマをチームで創り上げることで、創造の楽しみと苦労をも体験します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エチュード①	「トラブル」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第2回	エチュード②	「ゴシップ」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第3回	エチュード③	「誤解」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第4回	エチュード④	「すれ違い」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第5回	エチュード⑤	「事件」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第6回	エチュード⑥	「日常」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第7回	発表(試験)	自由課題でチームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では自主性と自由な発想力やシチュエーションの表現力、並びにチームやドラマにおける役割認識や俳優としての個々の魅力の発見などを審査します。さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バリオオリジナル: 脚本分析①	オーディションによる配役の前に、様々な組み合わせでの読み合わせを行い、作品の世界観やテーマを確認します。
第2回	バリオオリジナル: 脚本分析②	オーディション前の組み合わせで、「語頭アタック」のフレージングを行いながら更に脚本の理解を深めます。
第3回	バリオオリジナル: 立ち稽古①	ブロック①を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第4回	バリオオリジナル: 立ち稽古②	ブロック②を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第5回	バリオオリジナル: 立ち稽古③	ブロック③を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第6回	バリオオリジナル: 立ち稽古④	ブロック④を、まず「語頭アタック」での読み合わせ後に、ミザンセーンを確認しつつ立ち稽古します。
第7回	バリオオリジナル: 立ち稽古⑤	「スロースルー」で筋肉の解放と集中を行い、「クイックスルー」で反応を確認して無駄な間を省きます。
第8回	期末テスト	期末テストとしてA・B両班の通し稽古を行い、それぞれの配役や役割に応じて個人評価します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では与えられた課題へのアプローチの他に、自主性と自由な発想も重視します。さらに、集団作業としての「創作」への関わり方や意識の持ち方なども審査し、そこに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	演技研究Ⅱ	大谷美智浩

科目概要

前期・後期ともにチームに分かれて、週ごとに異なるテーマでショートドラマを創作します。課題は春学期よりもさらに感情的・抽象的な概念へと進み、感情の激しさや心情の奇怪さ、醜悪さにまでも目を向け、「人間への考察」をさらに深めて表現の幅を広げます。

到達目標

「人間」「人生」「運命」などへの考察を深めて抽象的感覚と具体的感覚の双方を磨き、シリアスからコメディまで、幅の広い演技を体験し習得して、演技スキルの総合的なレベルアップを目指します。さらには舞台俳優としての心構えや基本姿勢を学び、卒業後の活動に備えます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エチュード①	「笑い」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第2回	エチュード②	「怒り」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第3回	エチュード③	「悲しみ」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第4回	エチュード④	「癒し」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第5回	エチュード⑤	「妬み」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第6回	エチュード⑥	「日常」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第7回	エチュード⑦(試験)	自由課題でチームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技ではシリアスやコミカルなシチュエーションにおける表現の幅、並びにチームやドラマにおける役割認識や俳優としての個々の魅力の発見などを審査します。さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エチュード①	「友情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第2回	エチュード②	「愛情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第3回	エチュード③	「薄情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第4回	エチュード④	「慕情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第5回	エチュード⑤	「痴情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第6回	エチュード⑥	「劣情」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第7回	エチュード⑦	「日常」を課題に、チームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。
第8回	エチュード⑧(試験)	自由課題でチームに分かれてショートドラマを創作し、各々の発表を鑑賞して合評会を行います。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

2年間の総決算として、想像力・創作力・演技力を評価します。過去に身に付けたスキルを再確認し、自分たちで創り上げた状況をどれだけ「信じられるか」を審査し、さらに授業態度や出席状況を加味して総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	舞台制作研究 Ⅲ	井上 仁司

科目概要

■1、2クォーターでは実際に7月に行う「学生制作作品前期発表」に向けての企画・運営・実践までを行います。スタッフワークやクリエイティブなことも同時に行います。

◆1年生の体験をもとにパフォーマンスができるまでの準備を緻密に計算し、それぞれの「しごと」を実践します。

到達目標

◆企画会議では積極的に発言し、企画書を作成します。この企画書どおりに進行できているかを見ます。本番までのスケジュール管理と演出プランに基づいたリハーサルの進行ができているか確認します。

◆決して自己満足にならない内容の作品、2年間の集大成ができたかどうか映像で確認します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品を企画する	学生制作作品前期発表に向けて作品の内容を発案し、グループでディスカッションしてみましょう。
第2回	作品を制作する	それぞれのグループで発案したアイデアをプレゼンテーションし、制作する「作品候補」を絞り込みます。
第3回	作品の構成を作る	決定した「作品」に関して具体的な内容を一つ一つ組み立てていきます。スタッフも選出します。
第4回	演出プランを決める	上演脚本の作成とそれに合わせた演出プランを決めていきます。各スタッフの作業を決定していきます。
第5回	スタッフを決める	演出、脚本、選曲、振付、道具、衣装などそれぞれのスタッフグループに分かれてスタッフワークを進めます。
第6回	香盤表の作成	構成が出来上がれば、いよいよ配役を進めます。配役が決まれば香盤表を作成し、各自が把握します。
第7回	リハーサルの計画	発表当日までのリハーサルのスケジュールを各スタッフのリーダーで会議し、スケジュールを発表します。

クォーター末試験評価方法

◆出席50%,平常20%で算出します。

◆積極的に意見交換しているか、自分の仕事を責任もってできているか30%

◆進行表や脚本、上演台本などの大切に管理されているかも評価のポイントとなります。資料や道具、材料など持ち物も大切に扱います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハーサル①	キャスティングされた配役での脚本の本読み、構成台本の確認など踏まえ各シーンをイメージしていきます。
第2回	リハーサル②	選曲されたそれぞれのナンバーの歌稽古、本読みなどスケジュール係が立てた予定で進行します。
第3回	リハーサル③	各ナンバーでの振付に入ります。様々なジャンルのダンスができるように各自が準備します。
第4回	リハーサル④	衣装係のプランによって衣装を準備して衣装合わせ。衣装パレードなど行います。演出プランと合わない場合はすぐに変更します。
第5回	リハーサル⑤	衣装つき通し稽古を行い、終了時に問題点がないか、全員でディスカッションします。
第6回	リハーサル⑥	大道具やセットの位置を実際の教室で決めていきます。これに合わせて立ち位置なども決定していきます。
第7回	ゲネプロ	本番を想定しながらの衣装付きの通し稽古です。上演時間なども考量しながら運営していきます。
第8回	発表会、試験	学生作品前期発表会です。搬入、搬出、客入れから客出しまで、納得に行く作品になったか、反省会をします。

学期末試験評価方法

◆出席50%,平常20%で算出します。

◆積極的に意見交換しているか、自分の仕事を責任もってできているか、自己満足していないか30%

◆「アンケート調査」なども行い、自分たちの作品がどう評価されたかを検証し、発表できるように準備しておきましょう。場合によってはレポート提出などもあります。30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	舞台制作研究 IV	井上 仁司

科目概要

◆3、4クォーターでは実際に学年末に行う「卒業公演・学生制作作品」に向けての企画・制作・実践までを行います。プロのスタッフとの共同作業もあります。2年間で学んだ事を発表する最後の機会です。
決して安易なものではなく納得のいく「パフォーマンス・スタッフワーク」を發揮します。

到達目標

◆企画会議では積極的に発言し、企画書を作成します。この企画書どおりに進行できているかを見ます。本番までのスケジュール管理と演出プランに基づいたリハーサルの進行ができていないか確認します。
◆決して自己満足にならない内容の作品、2年間の集大成ができたかどうか映像で確認します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品を企画する	卒業公演に向けた作品を企画します。全員でディスカッションしながら「学生最後の作品」の準備を始めます。
第2回	作品を制作する	作品のタイトルや作品の持っているメッセージなどイメージして、意見を出しあいます。
第3回	作品を構成する	大まかな方向性が決まれば、スタッフを決めて、作品の構成を作っていきます。企画書を作ります。
第4回	演出プランを立てる	学生最後の作品として「見る人に何を伝えたいか、何が必要なのか」を話し合っていきます。
第5回	スタッフの仕事	全員が何らかのスタッフを兼ねます。一人一人が自分の仕事を理解し協力し合ひましょう。
第6回	配役を決める	ストーリーや構成に合わせた配役を決め、香盤表を作成し、マイクの本数なども確認していきます。
第7回	リハーサルの計画	卒業公演本番当日までの日程を把握したうえで、リハーサルの手順やスケジュールを立てます。

クォーター末試験評価方法

◆出席50%,平常20%で算出します。
◆積極的に意見交換しているか、自分の仕事を責任もってできているか30%
◆自分の仕事以外にも積極的に人のアシストなどができているかどうかポイントとなります。自分の周りをよく見て気を配ることができるかどうかポイントとなります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品制作①	脚本の読み合わせ、構成台本の確認を全員で行い、作品のイメージを共有しています。
第2回	作品制作②	選曲ができたナンバーから、カラオケや楽譜の手配を踏まえ、唄稽古を進めていきます。
第3回	作品制作③	唄稽古が終了したナンバーから順に振付・ステージングを始めていきます。演出に沿った振付を目指します。
第4回	作品制作④	振付・ステージングとほぼ同時期に演出プランに合わせた衣装デザイン、小道具制作も進めていきます。
第5回	作品制作⑤	劇場ホールのサイズに合わせて稽古場を場ミリして、問題がないかチェックしてみます。
第6回	作品制作⑥	衣装を着けて実際に通し稽古を実施して録画します。問題点などないかチェックして改善していきます。
第7回	小屋入り	搬出、積み込み、作品に必要な道具や機材、衣装など搬入し、プロの照明スタッフと明かり合わせです。
第8回	「卒業制作作品発表」試験	納得に行く作品が全員の協力のできたのか、観客の皆さんが判断してくれます。

学期末試験評価方法

◆出席50%,平常20%で算出します。
◆舞台図面などを正確に理解し、自分の仕事を責任もってできているか30%
◆自分の仕事以外にも積極的に人のアシストなどができているかどうかポイントとなります。自分の周りをよく見て気を配ることができるかどうかポイントとなります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ソルフェージュⅢ	小笠原 貞宗

科目概要

1年次(ソルフェージュⅠ・Ⅱ)で習得した基礎は、常に再確認しなければなりません。特に「音程」「リズム」に関する聴音はどれほどレベルが進んでもゆるがせにはできません。そこでまず第1クォーターでは、楽典的な基礎の復習も兼ねながら、徹底的にブラッシュアップしていきます。第2クォーターでは、新曲視唱を再開し、必須の調判定、旋律背後の和音を想起する能力を養うことを大目標とします。

到達目標

初見で見せられた楽譜を可能な限り正確に演奏する能力は、音楽の現場では殊の外、重視される能力です。なぜなら、素早い読譜と再現能力は現場では最も喜ばれるからです。その場ですぐできる人と、何日も練習しないとできない人とは、仕事の生産性、効率性がまるで違って来るからです。ここでは卒業後の仕事も視野に入れたプラクティカルな能力に焦点を合わせていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「音程の種類」をもう一度確認しよう！	完全1度から全ての音程(長短・完全・増減)を把握することを学びます。聴いてわかる、見て歌えるの両方が大切です。
第2回	「リズム記譜法」を正確にマスターしよう！	シンコペーション、タイ、3連符、休符等を含む正しい記譜法を学びます。昔からある正しい記譜法には意味があります。そこを徹底しよう。
第3回	「固定ド唱法と移動ド唱法」を自在に操ろう	なぜ移動ド唱法も習得するべきなのかを学びます。一度や二度の練習では身に付かないのが移動ド唱法です。根気よく反復練習あるのみ。
第4回	「調号の総復習」をやっておこう！	各自の苦手の調、調号を克服するために学びます。調は色に譬えられます。全ての調を自在に使いこなせれば、音楽の世界が広がります。
第5回	「和音の種類」を精査しよう！	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音の成立と区別を再度学びます。和音にも色があります。耳を鋭敏にして違いが分かるようにしましょう。
第6回	「和音の進行」	トニック、ドミナント、サブドミナントの組み合わせのカデンツを学びます。カデンツは西洋音楽の文法。ここを制す人は音楽を制すのです。
第7回	「まとめ」をしっかりやっておこう！	第1クォーターで学習した項目の総復習と小テストを実施します。日頃の努力の成果がはっきり出ますので、気を引き締めていきましょう。

クォーター末試験評価方法

第1クォーター期末試験では、全調の音階、調号、音名が淀みなく使用できるかどうかをひとりずつチェックします。日頃のトレーニングの在り方を問われる小テストになります。何の苦も無く、完璧にできるようにしておきましょう。そのレベルで初めてプロとして使い物になります。

期末試験50% 出席30% 五線譜ノート20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「新曲視唱1」を再び取り組もう！	今までの実力で歌える易しい範囲の新曲からスタートします。初心に帰って、音程、リズム、出来ればフレーズ感も意識して歌いましょう。
第2回	「新曲視唱2」でさらに能力アップ！	調性、リズム、音程の少し難しい新曲に挑戦します。常に難易度の高い課題に挑戦する気概を持ちましょう。怯んではいけません。
第3回	「新曲視唱3」でもっとも能力アップ！	最も難しい音程、リズムを含む課題に挑戦します。出来なくても当たって砕けるです。砕けても砕けても、再挑戦していきましょう。
第4回	「メロディの背景にある和音1」	終止形(カデンツ)の重要性を再度、学びます。カデンツの重要性はいくら強調しても足りません。よく腑に落とし込んでもらいます。
第5回	「メロディの背景にある和音2」	和声音、非和声音の区別をメロディの音から学びます。旋律が和声音のみで成り立っていたら変化に乏しいのです。非和声音こそが命。
第6回	「メロディの背景にある和音3」	借用和音の見つけ方、使い方を学びます。隣近所の調から旋律や和音を借りてくることで、音楽に活気が生まれます。
第7回	「メロディの背景にある和音4」	歌いながら、同時に伴奏にある背景の和音を感じながら歌うことを学びます。和音と旋律の一体感を感じてください。
第8回	「まとめ」をしっかりやっておこう！	春学期で学んだ項目の総復習と、期末テストを実施します。旋律聴音、リズム聴音、和音の識別、移調の実践などをテストします。

学期末試験評価方法

春学期の期末試験はペーパー試験を実施します。

聴音(旋律、リズム)、移調譜の作成、和音の識別、その他の試験になります。採点方法は、減点方式です。つまり、ひとつもミスがなければ100点満点になります。目指せ、満点！

期末試験50% 出席30% 五線譜ノート20%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	小笠原 貞宗

科目概要

2年次の後半は、主として優れた音楽作品(クラシック、ミュージカル等)をどう咀嚼し味わったらいいか、さらに簡単な旋律とそれに合うコード進行の作成といった、創作レベルにも踏み込んでいきます。また、CD等の音源を耳コピーするなどの実践的方法にも触れていきます。音楽の現場では最小限の回数で瞬時に脳裏に焼き付ける絶対的な能力が要求されるのです。

到達目標

ソルフェージュという科目の性質上、これでよいという上限はありません。より高度なもの、より複雑なもの、より時間のかかるものに取り組むことで実力を向上させることが常に要求されます。まずは卒業後の仕事の現場で待ち受けている状況に対応する能力の準備が最優先です。その上で、さらに自分の音楽生活を充実させるための創作活動、耳コピーの実践を楽しみながら継続することです。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「旋律聴音1」を再び学ぼう!	調号、拍子、譜割りの拍数の確認を再度学びます。基本的な事柄は常に再確認する癖をつけましょう。
第2回	「旋律聴音2」をさらに学ぼう!	うっかり間違いやすい跳躍音程を正確に把握することを学びます。音程は歌う直前に頭の中で鳴らしてから歌うので、正しく歌えるのです。
第3回	「和音聴音1」は楽しいぞ!	重なった個別の音を聴きとると同時に、和音としての色を感じ取ることを学びます。ここでは、聴覚神経の筋力のつもりでがんばりましょう。
第4回	「リズム聴音1」でさらに高度なものを!	4小節の短い課題から始め、記憶が完了してから記譜することも学びます。記憶力は鍛えれば必ず伸びます。集中力の訓練にもなります。
第5回	「リズム聴音2」でもっと高度なものを!	さらに集中力を高めて、8小節の長い課題でも、記憶後に記譜することを学びます。頭の中にある五線紙に書き込む要領で記憶しましょう。
第6回	「和音聴音2」はもっと楽しいぞ!	和音内の各パートの横の繋がりにも気づき、耳を働かせて聴き取ることを学びます。内声にこそ、隠れた音楽の醍醐味があるのです。
第7回	「まとめ」をしっかりやっておこう!	第3クォーターで学んだ項目のチェックと総復習、小テストを実施します。普段から、しっかりトレーニングしていれば、何も怖くない小テスト。

クォーター末試験評価方法

全くの新曲を初見で歌うという、追い込まれた状況下でも発揮できる真の実力を養うような小試験を実施します。実際の稽古場でもありうる状況に、学生のうちから慣れておくことも大切です。細かいミスを気にするよりも、大きな流れを捉えて歌うことが大切です。
 期末試験50% 出席30% 五線譜ノート20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「耳コピーの実践1」に取り組んでみよう!	カーペンターズやポール・モーリア楽団などの音源から特定の部分を聴きとる方法を学びます。何度も何度もしつこく聴くのみです。
第2回	「耳コピーの実践2」も取り組んでみよう!	耳コピーの実践から得られる音楽上の恩恵を学びます。聴くことにより、音楽の構造が見えてきます。細部と大きな構造が把握できます。
第3回	「旋律の創作1」でミニ作曲家になろう!	4小節(小楽節)×2=8小節(大楽節)の基本を学びます。音楽は文章と共通です。ともにcomposition ですから。構成する精神を学びます。
第4回	「名曲の分析1」は楽しいぞ!	音楽の様々な法則、名曲の条件を学びます。優れた作品には優れた作曲家の英知が詰まっています。これを学ばずに何を学びますか。
第5回	「旋律の創作2」で小作曲家になろう!	旋律の背景にある和音の可能性、選択について学びます。和音の選択はセンスに尽きます。センスを磨くことに集中しましょう。
第6回	「名曲の分析2」も楽しいぞ!	音楽の不思議、感動体験の正体について深く学びます。クラシック音楽もポピュラー音楽も根底では同じです。
第7回	「各自の作品公開」で自分公開だ!	仲間の作った旋律を聴き、互いに個性を認め合うことを学びます。感性の違う人が作った旋律の面白さを味わうことも大いに勉強になります。
第8回	「まとめ」をしっかりやっておこう!	第4クォーターの総復習と期末試験を実施します。ソルフェージュの自習と今後を自分で計画します。将来の勉学の発展に希望を託します。

学期末試験評価方法

基本の課題(旋律聴音、リズム聴音)に加えて、創作課題も重視します。最後の試験となります。旋律聴音、リズム聴音、移調譜作成、和声付けなどの能力を見ます。鋭敏な耳を保持したまま、音楽業界で活躍できるように、なお一層の精進を。減点方式、ミス0で満点獲得です。
 期末試験50% 出席30% 五線譜ノート20%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ミュージカル研究Ⅲ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せもっています。そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けており、独特のリズム、フレーズ、サウンド、グルーブ感を持っています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標

1クォーターでは、1年次に学習した内容の把握を小テストで確認し、1990年代のディズニー作品を学び、おおよそそのディズニー音楽の変移を理解します。2クォーターでは2000年代のミュージカル作品やトニー賞受賞作品などを学習し、知識の裏付けのある歌唱を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1年次に学習した内容の復習小テスト	1年生で学んだミュージカル作品について小テストを行い、理解の甘い箇所を重点的に授業を行います。
第2回	ディズニー初期の作品概要と音楽的特徴①	短編アニメーション映画音楽から、30年代までのディズニー作品のディズニーならではの音楽的特徴を学びます。
第3回	ディズニー初期の作品概要と音楽的特徴②	「白雪姫」の音楽の特徴、ジャンル感、モチーフやその音楽効果などをDVDを観ながら検証します。
第4回	新生ディズニーの作品概要と音楽的特徴①	新しいポップスサウンドを体感し、新生ディズニーの立役者、アラン・メンケンとその作品について学びます。
第5回	新生ディズニーの作品概要と音楽的特徴②	「リトル・マーメイド」で登場人物のキャラクターと音楽のジャンル感の関係性を理解し、実際に歌唱します。
第6回	新生ディズニーの作品概要と音楽的特徴③	「ライオン・キング」の演出方法、民族色の濃い音楽とその特徴を生かした歌唱方法について実際に歌って体感します。
第7回	1クォーター末筆記試験の実施	ディズニー音楽の歴史と現在に至るまでの変移について論述し、レポート(A4用紙)を提出します。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% レポート点 30%
 平常点としては、授業内での積極性や向上心、小テストの結果で評価します。また、筆記試験は、期日までにレポートを提出してください。内容を理解し考え、自分の言葉で記述することが肝心です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2000年代のBW作品概要と音楽的特徴①	「スカーレット・ピンパーネル」DVDを観ながら、作品の内容、作曲家フランク・ワイルドホーンについて学びます。
第2回	2000年代のBW作品概要と音楽的特徴②	ワイルドホーン作品から1曲を選曲し、キャラクターの心情を理解した裏付けのある表現を目指し、歌唱します。
第3回	第73回トニー賞のみどころを鑑賞	トニー賞について学びます。第73回トニー賞の映像を鑑賞しながら、受賞作品、俳優、作曲家などをインプットしていきます。
第4回	トニー賞受賞作品概要と音楽的特徴	トニー賞受賞作品、ノミネート作品などからひとつ作品を選び、作品の概要、感じたことなどをそれぞれ発表します。
第5回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう①	選んだ作品から1曲を選曲し、そのシーンを理解し、キャラクターとその心情を推察し、実際に歌います。
第6回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう②	グループに分かれ、音楽の特徴をつかんでいるか、シーンを理解し裏付けのある表現ができているか確認します。
第7回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう③	グループに分かれクラス内で発表します。お互いのパフォーマンスを見て、作品へのアプローチを更に高めます。
第8回	春学期末実技試験とそのフィードバック	グループ、又はソロで歌唱、及び作品やシーン、音楽について質問をし、実技試験とします。フィードバックも授業内に行います。

学期末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 実技点 30%
 平常点は、授業内に作品、音楽についてどう感じるか、などを発言してもらい、その積極性や向上心を測ります。また、春学期末実技点としては、作品を理解して実践を試みているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ミュージカル研究Ⅳ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せもっています。そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けており、独特のリズム、フレージング、サウンド、グルーブ感を持っています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標

3クォーターではドイツ語圏ミュージカルとBWミュージカル作品との違いを知識と感覚から理解し、4クォーターでは、2年間で勉強してきた勉強方法を卒業公演演目で実践していきます。演じるために学んだ知識をいかに有効に使えるかを、実践を持って勉強し、身に付けます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドイツ語圏ミュージカルの成り立ちと音楽的特徴①	BWともWEとも違う、ドイツミュージカルの作品の特徴や作曲家と作詞家とその音楽をインプットします。
第2回	ドイツ語圏ミュージカル作品概要と音楽的特徴②	「エリザベート」ウィーン版DVDを観ながら、作品のテーマ、舞台装置、演出効果と音楽の関係を探ります。
第3回	ドイツ語圏ミュージカル作品概要と音楽的特徴③	「エリザベート」の中から「愛のテーマ」を歌い、作品独特の世界観、変拍子、転調を正確につかんで歌います。
第4回	ドイツ語圏ミュージカル作品概要と音楽的特徴④	「ダンス・オブ・ヴァンパイア」の原作「吸血鬼」を鑑賞し、その内容とロマンポランスキーの世界観を体感します。
第5回	ドイツ語圏ミュージカル作品概要と音楽的特徴⑤	「ダンス・オブ・ヴァンパイア」のハンガリー版DVDを鑑賞し、舞台装置、演出方法、アクロバティックなダンスシーンを勉強します。
第6回	ドイツ語圏ミュージカル作品概要と音楽的特徴⑥	「ダンス・オブ・ヴァンパイア」から「外は自由」を二重唱し、シーンを理解した歌唱方法を勉強します。
第7回	3クォーター末筆記試験の実施	3クォーターの授業で学習した内容について記述式、及び論述式で試験をし、理解度を確認します。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、授業内での積極性や向上心、小テストの結果で評価します。また、筆記試験は、記述式論述式試験です。内容を理解し考え、自分の言葉で記述することが肝心です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2年間学習した内容を卒業公演演目作品に活かす	作品を演じるために必要なミュージカルの知識で作品にアプローチし、各項目についてディスカッションします。
第2回	ナンバーの音楽的要素の正確なインプット	楽譜に記載されているアーティキュレーションをインプットし、そこに音楽ジャンル感、キャラクター要素を込めて歌います。
第3回	ナンバーに自分なりの表現を込める工夫	作品から探るキャラクターに自分らしさの表現をプラスしていきます。人前で歌い、お互い感じた事を発表します。
第4回	演出の方向性を理解し、ブラッシュアップ	創り上げた人物像が作品から離れていないか、また演出の方向性に沿っているか確認しながら進めていきます。
第5回	ブラッシュアップしたナンバーを発表①	ひとりづつナンバー解釈、演奏におけるアーティキュレーション、表現とその裏付けなどを発表し、歌唱します。
第6回	ブラッシュアップしたナンバーを発表②	ひとりづつナンバー解釈、演奏におけるアーティキュレーション、表現とその裏付けなどを発表し、歌唱します。
第7回	ブラッシュアップしたナンバーを発表③	ひとりづつナンバー解釈、演奏におけるアーティキュレーション、表現とその裏付けなどを発表し、歌唱します。
第8回	秋学期末筆記試験とそのフィードバック	2年間の授業内で勉強した内容について筆記試験を実施し、後日フィードバックします。

学期末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 試験点 30%
 平常点は、授業内に作品、音楽についてどう感じるか、などを発言し歌唱、その積極性や向上心、クオリティを測ります。また、秋学期試験点としては、2年間勉強してきた事の総合力を重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンス・プレゼンテーション Ⅲ	井上 仁司

科目概要

- ◆1年次に行ったグループでのパフォーマンスを基に2年時では順にソロパフォーマンスを行います。
- ◆ほかの人のプレゼンテーションを見て「取り入れるべきことは取り入れ」「改善すべきところは改善して」目標にしている実際の業界オーディションに生かしていきましょう。
- ◆クラスタイムも兼ねていますので学校からの連絡などもあります。

到達目標

- ◆出席50%平常30%レポート提出20%
- ◆自分以外のパフォーマンス・プレゼンテーションを見て、自分に置き換えて考え、互いに活発な意見が交換できことが理想です。思いついたアイデアなどが説明できるかどうか成績を付けるうえでのポイントとなります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ソロパフォーマンス①	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第2回	ソロパフォーマンス②	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第3回	ソロパフォーマンス③	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第4回	ソロパフォーマンス④	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第5回	ソロパフォーマンス⑤	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第6回	ソロパフォーマンス⑥	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第7回	ソロパフォーマンス⑦	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席50%平常30%レポート提出20%
- ◆自分以外のパフォーマンス・プレゼンテーションを見て、自分に置き換えて考え、互いに活発な意見が交換できことが理想です。思いついたアイデアなどが説明できるかどうか成績を付けるうえでのポイントとなります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ソロパフォーマンス⑧	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第2回	ソロパフォーマンス⑨	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第3回	ソロパフォーマンス⑩	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第4回	ソロパフォーマンス⑪	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第5回	ソロパフォーマンス⑫	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第6回	ソロパフォーマンス⑬	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第7回	ソロパフォーマンス⑭	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。
第8回	ソロパフォーマンス⑮	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのソロパフォーマンス(歌、ダンス、演技など)を順番に行います。

学期末試験評価方法

- ◆出席50%平常30%場合によっては映像などの提出物などもあります。
- ◆自分以外のパフォーマンス・プレゼンテーションを見て、自分に置き換えて考え、互いに活発な意見が交換できことが理想です。思いついたアイデアなどが説明できるかどうか成績を付けるうえでのポイントとなります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンス・プレゼンテーションⅣ	井上 仁司

科目概要

- ◆この時期になると実際のオーディションを経験することも増えてきます。
- ◆実際のオーディションに向けて「プロフィール」の作成、見直し、上書きなどが必要となります。
- ◆実際の応募要項などを参考にして、プロフィール作成を充実させていきましょう。
- ◆「アーティスト」写真を選ぶことも重要な作業となります。

到達目標

- ◆実際の業界オーディションの最終選考で要求される「特技」などに利用できるように工夫します。
- ◆自信を持って自分を売り込むためのプレゼンテーションをするためには何が必要なのかを再確認します。
- ◆アーティスト写真撮影の時間を利用して自分のア写真を自己分析できるようにします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セルフ・プレゼンテーション①	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第2回	セルフ・プレゼンテーション②	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第3回	セルフ・プレゼンテーション③	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第4回	セルフ・プレゼンテーション④	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第5回	セルフ・プレゼンテーション⑤	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第6回	セルフ・プレゼンテーション⑥	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第7回	セルフ・プレゼンテーション⑦	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席50%平常30%レポート提出20%
- ◆自分以外のパフォーマンス・プレゼンテーションを見て、自分に置き換えて考え、互いに活発な意見が交換できることが理想です。思いついたアイデアなどが説明できるかどうか成績を付けるうえでのポイントとなります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セルフ・プレゼンテーション⑧	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第2回	セルフ・プレゼンテーション⑨	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第3回	セルフ・プレゼンテーション⑩	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第4回	セルフ・プレゼンテーション⑪	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第5回	セルフ・プレゼンテーション⑫	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第6回	セルフ・プレゼンテーション⑬	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第7回	セルフ・プレゼンテーション⑭	プランを立てて、しっかり準備を行い、集中して理想通りのセルフ・プレゼンテーション(特技となるもの)を順番に行います。
第8回	総括	どこの現場に行っても自信を持ってセルフ・プレゼンテーションができる集中力、瞬発力を身に着けます。

学期末試験評価方法

- ◆出席50%平常30%場合によっては映像などの提出物などもあります。
- ◆自分以外のパフォーマンス・プレゼンテーションを見て、自分に置き換えて考え、互いに活発な意見が交換できることが理想です。思いついたアイデアなどが説明できるかどうか成績を付けるうえでのポイントとなります。